



1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	119220028
法人名	ALSOK介護株式会社
事業所名	グループホーム みんなの家・志木柏町
所在地	埼玉県志木市柏町3-9-19
自己評価作成日	令和3年8月17日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート
所在地	東京都練馬区東大泉3-37-2
訪問調査日	令和3年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

会社全体で実施しているリモート使用した運動教室に毎月参加し、他事業所の様子を見たり交流しています。また、体操の実施チェックリストも活用し、毎日午前・午後と体を動かす時間を作っています。敷地内の散歩も積極的に行っており、ご利用者様の気分転換を図っています。洗濯物たたみ、食器拭き等スタッフと一緒にこない、役割を持って生活して頂いています。また、フロアの飾り付けを季節ごとにご利用者様と一緒に制作しています。コロナ禍で大きな行事はできませんが、月毎の担当者を決め、季節に合わせた行事を行なっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 広い敷地を活用し、コロナ禍にあっても散歩等にて外出支援しています。また両ユニットがワンフロアにある恵まれた環境を活かし、悪天候の中でも室内で歩行訓練をするなどホームの特性を活かした活動にて利用者の健康維持がなされています。
- 新規卒卒者を採用・配置するなど将来を見据えた職員育成体制がなされています。教育担当者の配置、ノートによる教育者同士の情報共有等配慮された取り組みがなされています。
- 必要な医療知識に対する研修を迅速に行うなど利用者の安全・安心に対する環境整備に注力がなされています。在籍期間の長い職員によるケアは利用者だけでなく家族の安心にもつなげられていることが本評価に伴う家族アンケートからも理解することができます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に事業所理念を念頭におき、ケアを行っています。笑顔が絶えないホーム作りをモットーに理念の実現に向けて取り組んでいます。	事業計画中には年度の目標をかかげ、目指す支援の実践にあたっている。認知症ケアに正解はなく、事業所内研修の実施等により職員の研さん継続にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染防止のため、外部の方をお招きしたり、外出する事は出来ておりませんが、回覧板を回す際は、ご利用者様と一緒にしています。	近隣に職員が在住していること等を活用し、地域との親睦を深めている。新型コロナウイルスの影響から交流を自粛しており、できる活動に努めている。	軌道にのりははじめたオレンジカフェの開催がコロナ禍により中断している。ボランティアの来訪と共に終息後の再開が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染防止のため、交流は自粛しています。地域包括主催の会議には出席し、意見交換をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染防止のため、開催出来ておりません。中止のお知らせ、開催予定時の報告内容などはご家族様、地域包括、市の担当者へお知らせしています。	新型コロナウイルスの影響から開催を中断しており、行事・状況の報告が書面でなされている。終息後は、多様な参加者に参加してもらえる会議となることを望んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類などは極力持参し、顔を合わせて情報共有や相談をするようにしています。	メールでの情報収集、各種指導等により行政との連携にあたっている。同敷地内の有料老人ホームのほか法人内での協調・相談等を通して適切な支援に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	隔月に身体拘束廃止委員会を開催し、指針の確認や身体拘束にあたる行為や身体拘束を行なう際の手順などを確認しています。また、年2回の研修も行なっています。	都度テーマを定め、身体拘束廃止委員会での検討・周知がなされている。グループホームとしての特性に鑑み、適切な声かけ方法の分析に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	隔月に虐待防止員会を開催し、虐待に繋がりが得る声掛けや、虐待を受けたご利用者様の立場になって気持ちを考える機会とし、再確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修に以前参加したものの資料を、再度議題に取り上げ職員会議などで周知しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時には、ご理解頂けるよう時間をかけ説明させて頂いています。また、不明な点があればいつでも気軽にお問い合わせ下さるようお伝えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様、ご家族様より(から)意見を頂いた際は出来る限り対応しています。また、直接申し出にくい内容であってもお手紙という形でご意見頂けるよう用紙も用意しています。	コロナ禍にあつて窓越し・リモート機器利用等家族の面会に際して工夫した取り組みがなされている。通信、ブログを通して利用者の状況を報告し、家族の心配や不安への配慮にあたっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の職員会議やフロア会議で職員からの意見を抽出しています。個別でのヒヤリングも定期的に行なっています。	全体会議・フロア会議を通して職員への指導と報告がなされている。職員の意見をケアプラン策定に活かすなど職員の気づきや記録を反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部担当者が訪問し、勤務状態等把握しています。必要であれば管理者、職員とも面談しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社がプログラミングしている社内研修を行なっている。新型コロナウイルス感染防止のため、研修会場へは行けませんが、リモートでの座学など参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染防止のため、交流は自粛していますが、状況が落ち着きましたら情報交換などの交流を持ちたいと考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査や入居時の契約の際にご本人様、ご家族様に安心して生活が送れるよう当方から伺うようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査から入居契約までの間でもお話を伺うようにし、不安な点や要望など伺っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の介護計画書を作成する前に実態調査の際に聞き取った意向、ご本人様の生活状況などから情報を汲み取り、必要に応じてグループホーム以外のサービスが必要な時には提案するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活に於いて自己決定を前提とし、家事やレクリエーションを通して「手伝っていただく」ではなく、「共に生活をする」ことを意識しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染防止のため、ご家族様と対面でお話することはご遠慮いただいておりますが、何かあれば電話でお話をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染防止のため、交流は控えておりますが地域の神社に散歩に行ったり、電話でお話して頂けるよう支援しています。	在籍の長い職員により関係性を構築したうえでのケアがホームの安定につながられている。利用者の希望を聞き、趣向や嗜好を楽しめるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の相性や関係を見極め、関わり合いを大事にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院され戻られず退居になられた方のご家族様にその後の状態などお電話で伺っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から、ご本人様の暮らしの希望や意向を汲み取っています。また、ご家族様からも、ご本人様の希望を伺っています。	「利用者の表情を観察しながら」「話をしながら」利用者の意思・思考を推察するよう取り組んでいる。食事・排せつ・入浴等にはじまり全ての支援において利用者のペースを考慮するよう心がけた支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査にて、生活歴や生活環境を聞き取り、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日2回バイタル測定を行ない、体調管理に努めています。また、夜間・日中の様子を職員間で申し送り、周知しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議にて現在のご本人様の状態、ケア方法について話し合って反映させています。またご家族様の意向も取り入れ、反映するようにしています。	利用者・家族の意向を採り入れるよう努めており、特に家族に対しては更新の都度確認にあたっている。またフロア会議での周知、生活記録の確認を通してプランの目標を念頭においた支援の実践に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や連絡票を個別で記録しています。必要に応じて申し送りノートで情報を共有するようにしています。前述より情報を抽出し、ご本人様にとって適切なケアの検討・見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設されている施設との連携を取り、急変があった際は看護師に診て頂くこともあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染防止のため、交流を控えている状況ですが、地域包括主催の会議に参加し地域の様子や、ホームの様子を情報交換しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所との関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療医、歯科医は月に2回、歯科衛生士、医療連携看護師は週1回訪問しています。訪問時には状態を説明し、健康管理をはじめ適切な薬の処方や処置をして頂いています。	集団・個別の往診を通して利用者の健康維持にあっている。重度化と終末期の支援に対しても指示を仰ぎ、家族とともに協調したケアにあっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師が週1回のペースで訪問し、健康管理をしています。日常での気づきや変化について専用のノートを用いて情報共有をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には少なくとも週1回はご家族様、または医療機関に連絡しています。状態を把握した上で、早期退院に向けて動いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書に「重度化した場合の対応に係る指針」として明文化し、入居時に説明しています。日頃の状態変化を職員・ご家族様・主治医が共有し、ケアの方針を決めています。	入居時には「重度化した場合の対応に係る指針」について説明し、同意を得ている。利用者・家族の要望に添いながら終末期の対応がなされており、協力医療機関との連携をもって進めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各ご利用者様の既往は把握しており、起こりうる状態変化についても周知しています。また、急変時のフローはスタッフルームに掲示しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上併設事業所と合同で避難訓練を実施しています。新型コロナウイルス感染防止のため、地域の方にはご参加頂いておりませんが、避難訓練実施については掲示板などでお知らせしています。	火災想定を中心に定期での避難訓練を実施している。同敷地内の有料老人ホームと合同で行っており、避難時間の計測等万一の事態に備えた対応に努めている。	ハザードマップの確認等リスクの把握がなされている。事業継続計画の策定、倒木の対応等今後の検討課題を抽出している。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人に合わせた声掛けを、フロア会議などで話し合い、共有しています。声の大きさや、声のトーンなどご本人様にとって不快なものにならないような留意しています。	利用者の尊厳、こだわりを尊重した支援の実施に努めている。利用者の意思と必要な支援とのバランスを考慮し、一人ひとりへの対応を心がけたケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常着を選んで頂いたり、お飲み物やレクリエーション、TV番組などご本人様に決めていただけるようお声掛けしています。また、パン販売や出前の際もご本人様に選んで決めて頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調や精神状態を把握し、各々の生活ペース・ライフスタイルに添って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容が月2回あり、ご本人様の希望に沿ってカットやカラーをしています。また、シニアセラピーによるマッサージを受けられておられる方もいます。(自費)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつは職員と一緒に手作りしたり、下膳の際は出来る限り協力していただいています。	厨房での調理による食事提供のため、おやつづくり(お好み焼き・ホットケーキ・たこ焼き等)にて食事づくりへの参加をサポートしている。食器洗い等利用者が達成感を味わえるよう職員がひと手間を加え、見守りに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はカロリー等計算され、バランスの良い食事になっています。体調や嚥下機能の状態に合わせて食事形態も変更しています。嚥下状態などは歯科医、歯科衛生士のアドバイスも受けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回の訪問診療と週1回の歯科衛生士による診察・口腔ケアを受けています。毎食後、口腔ケアのお声掛け、必要に応じて介助をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮した声掛け、誘導を行なっています。極力、トイレで排泄して頂けるよう支援しています。	利用者一人ひとりの能力を把握し、適した支援方法の検討にあたっている。昼・夜の勤務職員が連携し、状態の把握をもって排せつのコントロールに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を多めにして頂いています。体操や散歩の参加も促しています。必要に応じて訪問診療医に相談し、薬の処方もして頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は、ご本人に確認しなるべく希望時間に入ってもらっています。また、入浴剤も使用して香りを楽しんで頂いています。	拒否をする利用者に対しては声かけや利用者が安心できる対応を心がけ、清潔の保持にあたっている。リフト浴槽、スペースを確保した浴室が整備されており、重度化した場合への対応が図られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休んで頂けるよう、夜間の照明や室温調整をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬情・錠数を確認し、セットしています。居宅療養管理指導書その他、訪問診療医や薬剤師による説明もあるので、各職員は理解した上で経過観察に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意なことをレクリエーションに取り入れています。 手先が器用な方には壁紙制作の細かい部分も一緒に作って頂いています。食器拭きや下膳、掃除など役割を持って頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染防止のため、外出は控えています。施設の周りや隣の公園に散歩に行き気分転換を図っています。	広い敷地を活用し、コロナ禍にあっても敷地内の散歩等にて外出支援している。また両ユニットがワンフロアにあることから悪天候の中でも室内で歩行訓練をするなどホームの特性を活かした活動がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金管理ができるご利用者様は、玄関にある自動販売機で希望時に飲み物を買えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方は、ご家族様へ了承を得て、かけています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様が過ごされるリビング兼食堂には季節に合わせて装飾しています。また、大きな窓からは外の景色を眺めることが出来、過ごしやすい環境となるよう留意しています。	清掃・消毒等により清潔な共有空間が保たれている。明るい装飾、広いリビング・廊下・玄関等ゆったりと過ごすことができる環境が整えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外の時間にコミュニケーションを取る際は椅子を用意し、気の合う方同士で過ごして頂いています。居室で過ごしたい方もいらっしゃるので、室温等注意し、過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・タンス・クローゼットは設備として設置されていますが、使い慣れた整理タンスや仏壇などの持ち込むことも可能で、今までの生活環境に少しでも近づけるようにしています。	利用者や家族により思い思いの家具や調度品が持ち込まれている。テレビやパソコンなどを設置し趣味を行うなど自由に過ごす時間とスペースが用意されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な箇所に手すりがあり、可能な方は安全に留意しながら自立歩行を頂いています。また、トイレは見当識に配慮して分かりやすいよう掲示をし、ご自分で行き来、排泄が出来るように環境作りをしています。		



目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	軌道にのりはじめたオレンジカフェの開催がコロナ禍により中断している。ボランティアの来訪と共に終息後の再開が期待される。	未だ見通しは立っていないがコロナウイルス終息後、円滑にオレンジカフェの開催、ボランティアの受入れができる環境を整備する。	コロナウイルス終息後、地域の方々や地域包括へ渡せるよう、ポスターやチラシの作成。また、来て下さる方々に楽しい時間を提供できる催し物を計画する。	6ヶ月
2	35	ハザードマップの確認等リスクの把握がなされている。事業継続計画の策定、倒木の対応等今後の検討課題を抽出している。	災害に備え、事業継続計画の策定、備蓄品等の確保、整備をしていく。	本社にて事業継続計画を2023年度末に策定予定であるが、ホームで取り組む内容として備蓄品の確保及び管理、防災訓練の実施を継続する。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月

手続き

①上記に記載 ②行政に 自己評価結果及び外部評価結果・目標達成計画を提出

③右の提出日を記載しこちらの用紙を評価機関にFAXにて送付 (FAX050-3730-1416) 行政への提出日 : 令和 3 年 10 月 7 日